

新潟：県議会議員の理解と共同をつくる新たな取り組みに踏み出す

新潟の「すすめる会」が画期的な取り組みを展開しました。県向け意見書採択請願でお世話になった女性議員さん呼びかけ人をお願いし、自民党、公明党、共産党、リベラル新潟の4会派の女性県議会議員さん5名と、私学の学費負担軽減・私学の無償化について懇談会を実現させました。全国各都道府県が国会議員の理解・協力に対して県議会議員との共同に苦心している中、「すすめる会」の父母による新たな有効な取り組みとして注目されます。

女性県議会議員5氏と初懇談

県私学助成予算の増額に尽力を要望



懇談にご出席いただいた県議会議員の方々(後列)。右から高見美加議員(自民)、安沢峰子議員(公明)、桜庭節子議員(自民)、遠藤玲子議員(共産)、秋山三枝子議員(リベラル新潟)の5氏。ほぼ全会派からの参加(欠席された池田千賀子議員(未来にいがた)の参加があれば全会派)が実現しました。(10月30日 県議会棟・議員応接室)

懇談では、「すすめる会」から先に実施した全国私立高校生一人アンケート結果(新潟県版)をもとに、私立高校生の声を紹介、学費のことで親に後ろめたい思いを抱えていること、バイトをして学費にあてていること、将来進学之梦を諦めるのをえないことなど高校生生の率直な思いを伝えました。また、親も学費捻出で苦労し、ダブルワークで働いて身体を壊してしまったり、父母の話などを紹介しました。

要望では、県財政が厳しく、削減が避けられない中、私学助成が削減対象に挙げられていることを示し、教育予算は削減でなく増額となるよう願っています。学費助成では国の就学支援金の拡充で県独自の予算が浮く分をさらに制度拡充のために生かすこと、経常費助成についても「経常費二分の一助成制度」を堅持し、教育条件の向上にむけ助成増額をはかることが来年度予算にむけた要望です。

「私学の公費助成をすすめる会」(以下「すすめる会」)は三十日、女性県議会議員5氏と初の懇談をおこないました。懇談実現にあたっては、高見美加議員(自民)の尽力がありました。高見議員は、長岡市議会議員時代に私学助成に関する意見書採択を求める請願でお世話になった方です。高見議員から他の女性県議会議員5氏全員に呼びかけていただき、高見議員を含む5氏との懇談が実現しました。懇談は、予定の1時間を超えて1時間半近くにおよび、熱心に議論を交わしました。「すすめる会」からは、中村直美会長、本田禮子副会長(私学父母の会会長)、渡辺利宏事務局長、小倉幸枝事務局長(私学父母の会事務局長)が参加しました。

あると伝えました。これに対し議員の方からは、自らも子どもを私学に通わせて苦労した経験から「私学助成を削らないで欲しい」という皆さんの気持ちに、私学だけでなく大学も無償化すべきなど、共感の意見が寄せられました。また、議員の方からは「ここにこの議員の気持ちがいっしょであれば、今後一緒に何かできないかと考えている」「今後こういう会を続けていければ」との前向きな意見も出されました。現在とりくんでいる知事宛要望署名のことも話題になりました。「すすめる会」として知事に直接会って署名を渡したいとの気持ちも伝えられたところ、「知事に会えるように、私達も努力したい」との嬉しい返答をいただきました。中村会長と本田副会長の発案で実現した女性議員との懇談でしたが、たいへん有意義な会となりました。「すすめる会」では、私学助成に対する理解をいっそう深めてもらうため、今後も懇談を継続していきたいと考えています。

私学のひろば2019～私学の学費を考えるつどい～

11月16日(土) 14:00開会
エコスタジアム・ミーティングルームL

■駐車場あり
※ビッグスワン(サッカー場)向かいの施設(野球場)です。

プレゼンで紹介

どうなる国の就学支援金制度、県独自の学費軽減制度は？
他県の動きは？…などなど

私学をアピール

高校生の生き活きた姿を映像で紹介！
中越高校・チアリーディング部出演！

